

令和8年6月15日 広報プロモーション課

送付文書 計3枚

報道機関 各位

訃 報

元立川市長 青木 久 氏（101歳）におかれましては、
令和8年6月8日（月）に御逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。

氏 名 あおき ひさし
青木 久

主な経歴 次頁のとおり

死亡日 令和8年6月8日（月）

死 因 敗血症

年 齢 大正14年5月28日生 101歳

通夜・葬儀・告別式 ご遺族の意向により、6月13日（土）に近親者のみで
執り行われました。

記 帳 台 立川市役所本庁舎において、以下の通り記帳台を設置します。

[期間] 令和8年6月16日（火）～19日（金）午前8時30分～午後5時まで

[場所] 立川市役所本庁舎（立川市泉町1156-9）

1階多目的プラザ（市民ロビー横）

[内容] 長期にわたり市政に功労のあった故人に対し、市として弔意を表すと
ともに、市民や関係者が弔意を表する機会を確保するため、ご遺族の
意向を踏まえ、市役所に記帳台を設置します。なお、**香典、献花は受
け付けていません。**

酒井大史 立川市長のコメント

青木 久 元市長のご逝去の報に接し、心から哀悼の意を表します。多摩都市モノ
レールやファーレ立川の整備、JR中央線連続立体交差事業の推進など、本市の発
展の礎を築かれるとともに、全国市長会会長として地方自治の発展に大きく貢献さ
れました。長年のご功績に深く感謝申し上げます、ご冥福をお祈りいたします。

【問い合わせ】

立川市 市長公室 秘書課 担当：牛山（ウシヤマ）

TEL 042-523-2111 （内線）2168

<主なご経歴>

昭和 32 年（1957 年）	旧砂川町収入役就任
昭和 38 年（1963 年）	立川市副収入役就任
昭和 40 年（1965 年）	立川市建設部長就任
昭和 44 年（1969 年）	立川市総務部長就任
昭和 47 年（1972 年）	立川市福祉部長・企画財政部長就任
昭和 49 年（1974 年）	立川市企画部長就任
昭和 51 年（1976 年）	立川市開発部長就任
昭和 53 年（1978 年）	立川市助役就任
昭和 62 年（1987 年）	第 14 代立川市長就任
平成 12 年（2000 年）	東京都市長会会長就任
平成 14 年（2002 年）	全国市長会会長就任
平成 19 年（2007 年）	立川市長退任（5 期 20 年）

青木久氏は、大正 14 年（1925 年）5 月 28 日に生まれました。

昭和 32 年（1957 年）に旧砂川町収入役に就任し、立川市との合併後は副収入役、建設部長、総務部長、福祉部長、企画部長、開発部長を歴任しました。昭和 53 年（1978 年）からは助役として市政運営に携わり、昭和 62 年（1987 年）に第 14 代立川市長に就任。以後 5 期 20 年にわたり市政の発展に尽力されました。

また、東京都市長会会長、全国市長会会長を歴任し、地方自治の発展にも大きく貢献されました。

立川の発展に残したご功績

青木氏は、「心のかよう緑豊かな健康都市立川」を掲げ、多摩地域の中核都市としての立川の基盤づくりを進めました。

<鉄道・交通基盤の整備>

立川駅周辺の都市基盤整備を推進するとともに、JR 中央線三鷹・立川間連続立体交差事業の推進に尽力しました。鉄道による地域分断の解消や交通渋滞の緩和など、現在の立川の発展につながる大きな礎を築きました。

<多摩都市モノレールの実現>

多摩地域南北交通の重要性を早くから提唱し、多摩都市モノレール建設の基礎を築きました。今日の多摩地域の交通ネットワーク形成に大きく貢献しています。

<ファーレ立川の整備>

基地跡地の再開発事業を推進し、平成6年（1994年）にファーレ立川を完成させました。世界36か国、90人を超える芸術家によるアート作品を配置した先進的なまちづくりは、国内外から高い評価を受けています。

<福祉の充実>

総合福祉センターの整備をはじめ、高齢者や障害者福祉の充実、シルバー大学やシルバー人材センターの充実など、誰もが安心して暮らせるまちづくりにも力を注ぎました。

<地方自治への貢献>

東京都市長会会長、全国市長会会長として、地方分権改革や地方財政の充実に取り組み、全国の自治体を代表して地方自治の発展に尽力しました。

